

教材・支援機器活用実践事例

きこえにくさがある児童が音やリズムをからだで感じて活動するための教材
「音をからだで感じるユーザインターフェース『Antenna』」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・小学部 1～6 学年
	障がい名等	聴覚障がい
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	感音性難聴や伝音性難聴、混合型難聴により、きこえにくさがある児童 13 名で、補聴器や人工内耳を装着している。日常会話では音声の他に手話や指文字を使用してコミュニケーションを行っている。
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	体育
	単元(題材)名	表現リズム遊び・表現運動「音を感じてからだを動かそう」
	単元(題材)の概要	「音をからだで感じるユーザインターフェース『Antenna』」を使用して、リズムを触覚で感じて、感じたリズムをもとにステップを踏んだり踊ったりして、自分の感じたことをからだで表現する学習である。 児童の腕に髪ゴムを使って機器を装着し、ストレッチ運動やリズムダンスの学習に取り組んだ。
教材・教具・支援機器について	教材・教具・支援機器	<p>【名称】音をからだで感じるユーザインターフェース『Antenna』</p> <p>【画像】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>「自分で声を出して振動を感じる児童」</p> <p>「音楽を感じてリズムに合わせて踊る児童」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(使い方)</p> <p>機器を衣服や腕に身に付け、スマートモードに設定し、教師がコントローラーから通信して、音やリズムを振動で伝える。</p> </div>
	ねらい・工夫点等	<p>○軽快なリズムに乗って全身で踊ったり踊り方を工夫したりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。</p> <p>○音やリズムを感じて、ひと流れの動きで即興的に踊ったり全身を動かして自分なりの表現をしたりすることができる。</p>
	材料・作成方法等	「音をからだで感じるユーザインターフェース『Antenna』」
子どもの変容や評価	<p>ストレッチ運動では、これまで終了の合図を確認しにくかったが、本機器を使用したことで児童が触覚で確認して動きを続けることができ、柔軟性の効果が上がってきた。</p> <p>リズムダンスでは、教師が動き始めの合図を出すことで振動を感じて自ら動き始めることができた。音楽に合わせたリズムの振動を感じて、ステップを踏んだりダンスをしたりして進んでからだを動かすことができた。</p> <p>話し合いでは、リズムの感じ方を話し、どのように動き方を工夫したのか発表することができた。</p>	

(令和元年度)